

2025年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
<p>1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立</p> <p>①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 (すべての生徒が妥協せず本当に行きたい大学に進学する)</p> <p>②進研模試、校外模試において学年平均偏差値50以上確保(中学各クラスで60以上、高校各クラスで65以上の生徒3名以上)</p> <p>③各種検定の規定級以上を全生徒が取得する。</p> <p>④SDGsの達成に向けて新たな価値を創造し、努力し続ける生徒の育成</p>

今年度の重点目標
<p>1. 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇国公立理系医・歯・薬、旧帝大レベルを含んだ難関大及び国公立大進学者5割(16名以上)を目指す。 ◇各学年、学力推移、進研模試における各教科及び3教科総合全国偏差値平均を1年間でアップさせ、クラスの偏差値平均50以上、中学各クラスで60以上、高校各クラスで65以上の生徒3名以上の実現。 ◇各種検定取得率アップを目指す。規定級を超える生徒数の増加を目指す。 ◇SSH認定2年目となり、全校体制の事業実施を目指す。またどの教員がチューターとなっても生徒の課題研究が一定レベルを担保できるように指導する ◇日中友好学校和安中学との交流を始めとし、新規1年目のインドネシア パリ島海外研修、アロハフレンドシップ事業など環境教育を絡めた国際教育を充実させる。 <p>2. 学校運営の充実と教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇中部地区からの生徒流出を防ぐべく、高校からの入学生を含め湯梨浜学園高等学校入学者30名以上獲得する。 ◇中学入学者は定員の36名を目指す ◇生徒の部活動、課題研究充実等、多方面への教育改革を目的とした週5日制への移行年度として学校行事、梨友会行事の精練をおこない、また教職員の働き方改革にも務める。 ◇学校通信、学級通信など各種広報紙の定期的発行、HP、FB、インスタグラム、BLEND、You Tube、Zoomなどをつかった情報提供迅速化、頻繁な更新に努める。 ◇20周年記念式典実行委員を運営すると共に生徒主体の同窓会組織の移行を進める。 <p>3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「あいさつ」「定時」「掃除」を指導の3つの柱に据え、規範意識を高めて、社会に必要とされる人間形成に努める。 ◇適宜個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。養護、担任だけでなくすべて教員が相談室登校の生徒への対応を行い、クラス授業への移行支援を行う。 また相談室指導からクラス指導への移行に尽力する <p>4. 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。 ◇いじめのない学校をめざす

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一步) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	国公立理系医・歯・薬、旧帝大レベルを含んだ難関大及び国公立大進学者5割(16名以上)	/	国公立大現役合格率18名、難関私立大学11名達成。	S
	校外模試における数値目標達成(クラスの偏差値平均50以上、中学各クラスで60以上、高校各クラスで65以上の生徒3名以上)	B	達成できた学年もあるが、一部の学年で未達成であった。高校2年生については11月以降5教科での判断となるので、次年度以降、理科・社会科にも力を入れて取り組んでいく。	C
	各種検定取得率アップ	B	行事の多い年度であったため、生徒は検定に割ける時間が少なかったかもしれない。受検人数の減少をみとめる。	B
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	中学入学者36名以上、湯梨浜学園高校入学生30名以上の獲得	/	中学では定員変更後の一期目の入学生となるが定員36名中、37名の入学者となった。高校においては28名の入学となる。	B
	SSH2年目として、発展的事業の推進	A	メディアへの露出も格段に増え、新入生の入学動機としてSSHのプロジェクトやスクールドッグの存在があげられ学園の認知度貢献している。また県知事表彰を受賞する研究班もあった。	S
	環境教育を絡めた国際教育の充実	A	円安の影響があり、今まで実施してきたグアム研修から、マングローブの世界最大産地であるインドネシアにシフトして海外研修を行った。	A
	週5日制の移行に伴う学校行事、梨友会行事の精練	B	概ね達成できたと言えるが、今まで実施してきた保護者との懇親会については継続したいという意見もある。教職員のワークライフバランスをしっかりと担保したうえで、保護者の方々へ理解していただける行事を実施していきたい	A
	HP、FB、インスタ、Blendなどでの積極的情報提供	A	メディアへの露出増加に伴い、HPニュースへの投稿が増えた。FBについては世間のインスタ、Xへの移行に伴い投稿回数は減少している。	A
	記念式典、記念事業の運営	A	20周年記念式典にあたり、式典準備、記念誌の作成ともに計画通り実行できた。	S
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒指導の3つの柱(あいさつ、定時、掃除)を、教職員間でのだけでなく徹底する	A	掃除時間を昼休憩後ではなく、放課後にしたことにより、生徒もスムーズに掃除に取り組むことができている。挨拶に関しては外部評価は高いが、受動的態度もあり、今後の成長が望まれる。	A
	生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感を醸成する	B	相談室利用者へのオンライン授業参加の取り組みなど継続して支援できている。SCへの件数については生徒数の関係で元々多くはないが、適宜利用している生徒からの評価は高い。	A
4. 人権教育の推進	学校生活でのあらゆる場面で、人権教育的視点にたつ	B	生徒指導や問題行動後の迅速な対応など一定の評価はできるが、100%達成できたとは言えない。	B
	いじめアンケート、ケース会議を実施し、生徒の心の動きを敏感に察知する取り組みを設ける	A	いじめアンケート、学校評価アンケート、QU調査など多角的に調査を行った。年間で10回、ケース会議を実施できた。	S